

“Dr.ジャン・シーのヒューマンファクター研究室”

No.38 (ヒューマンパフォーマンス ⑥) 参考

【トラブル事例】

重要機器室給気ファン(A)の異常警報が発信、現地を確認したところ給気ファン(A)が停止しており(A)モータ軸受から白煙が上がっていたため、予備機であった給気ファン(B)に運転を切替え、給気ファン(A)を点検することとした。

原因を調査したところ、(A)モータの分解点検後のグリス補給に際し、誤った油種のグリスを補給してしまったことによるものと判明した。

グリスを補給した作業員は、作業準備においてモータ用の油種「〇〇(製品名称)DX-No.2」を用意しなければならなかったが、初めて使用する機器管理システムにおいて対象機器の選択を誤ってファン用の油種「〇〇MAX-2」を準備してしまった。グリス補給の際にグリスの品番が現場表示(当該モータの油種表示)と異なっており疑問に思ったものの、「現場表示がシールであった」ため信用せず、「作業を止めてまで確認しなくても大丈夫だろう」と勝手に判断し、確認をせずにそのまま作業を行ってしまった。

【ヒューマンパフォーマンスツールの活用】

ツール名: **“不確かな場合の中断” (STAR*の「T」で不確かであれば止める)**

* セルフチェックのツール: Stop(止まる)－Think(考える)－Act(行動する)－Review(検証する)

➤ 何のため?

- 混乱や不確実さに直面するとき、人はエラーの可能性が高くなる
- 不確かな場合は、常に立ち止まって質問することが最良の行動である

➤ いつ使う?

セルフチェック(STAR)のT(考える)場面において、

- 不確実さ、疑問、混乱、問題点がめぐるえないとき
- 手順書と一致しない条件のとき
- 計画、プロセスの範囲外となったとき
- 予期せぬ結果、精通していない状況のとき
- 経験がない、知識が不十分など、3H(初めて・変更・久しぶり)のとき

➤ どう使う?

- ① 活動を止める(中断または一時停止)
 - ② 機器や現場を安全な状態に移行する
 - ③ 直属の監督者に報告する
 - ④ より知識のある人に助けを求める(確認する)
- 矛盾のある証拠や考えを否定しない(思い込みからの脱却)
 - 悪いことは何も起こらないという信念は捨てる(問いかける姿勢)

セルフチェック(STAR)を励行し、T(考える)場面で「疑問があれば止めて」「報告・確認」「問題を解消」、違和感を放置せずトラブルを未然に防止しましょう!

◎まずは、作業計画時にマニュアルや表示等を適正化し、最初のエラーを予防することが先決。そして、現場で疑問を感じたら、ためらわずに助けを求めること。そのためには、日頃からのチームワークも重要です。

※ ヒューマンパフォーマンスツールは、起こりうるエラーを予測し、感知することで、エラーや事故を防止しやすくするためのものです。このポスターは、事例を参考に安全啓発資料として編集・作成しました。